

大津島離島振興計画

《山口県離島振興計画・市町計画》

平成 25 年度～平成 34 年度



山口県周南市

第 1 章 計画の概要

1-1 計画の趣旨

大津島は、昭和 34 年 5 月に離島振興法の離島振興対策実施地域の指定をうけ、以来、本土からの地理的隔絶性などを要因とする後進性の除去を目的とした、様々な対策が講じられ、計画的な諸施策の推進により、生活基盤や産業基盤などの整備が着実に進められてきました。

しかしながら、住民の流出などによる著しい人口の減少が続いており、急激な高齢化とともに、地域活力の低下が懸念されています。

一方、大津島をはじめとする離島地域は豊かで美しい自然を有しており、自然とのふれあいの場やその機会を提供することで、重要な役割を担っています。

こうした中、離島振興法は昭和 28 年に制定されて以来 6 度目となる改正が行われ、それぞれの離島の創意工夫を生かした島づくりによる自立的発展を振興目的としてきた従来の法に、人の往来や物資輸送の費用が他の地域に比較して多額である状況の改善や、地域間交流を促進することで、人口の著しい減少の防止と定住の促進を図ることを振興目的に加え、新たな法へと改正されました。

この計画は、こうした離島振興法の改正などを踏まえ、本市のまちづくりにおける最上位計画である「周南市まちづくり総合計画（後期基本計画、計画期間平成 22 年度～26 年度）」に基づき、大津島の地域資源やこれまでの蓄積を最大限に発揮し、魅力ある島づくりを進めるための、今後 10 年間ににおける離島振興施策の指針として定めるものです。

また、本計画は、離島振興法に基づき、山口県が離島振興計画を定めるにあたり、その市町原案として山口県に提出するものです。

1－2 計画の対象地域

本計画の対象地域は、離島振興法に基づき離島振興対策実施地域の指定を受けた周南諸島地域のうち、周南市大津島とします。

1－3 計画の期間

本計画の期間は、平成 25 年度から平成 34 年度までの 10 年とします。ただし、必要に応じ、内容の見直しを行うものとします。

第2章 大津島の現状と課題

2-1 位置及び自然的条件

大津島は、本土に最も近い北端と本土側戸田地区との間は約1.5km、徳山港とは直線距離で約8kmの距離にある沿岸島で、南北約6km、東西0.5～1km、面積4.73k㎡の南北に細長い丘陵状の小島です。

徳山湾の西を縁どるように位置しており、このため、波静かな良港「徳山港」を形成する役割を果たしています。

島の構成は、大津島、馬島を本島とし、横島、樺島、洲島、五ツ島及び蛙島の7島で構成されています。(ただし、離島振興対策実施地域の指定区域は、本島部分4.73k㎡のみ)

本島のみ有人島となっており、島内に散在する低地に、近江、瀬戸浜、刈尾、本浦、天ヶ浦、馬島、柳ヶ浦の7つの集落を形成しています。

年間平均気温は約16℃と温暖で、年間降水量は1,600～2,000mmで、県平均とほぼ同じとなっています。

地形的には、大浴山(174m)を最高に、8つ余りの小丘が連続する、平地のほとんどない沈水島で、特に、西側と南側の海岸斜面は、季節風の影響で50～60mの海食崖が発達しています。また、沿岸流の影響で砂州も3ヶ所発達し、横島と馬島は砂州で大津島とつながっており、特に、馬島・大津島間の砂州は人工改変地で、道路や港が整備されています。

次に、地質構造を見ると、大半が三群変成岩類の黒色片岩で占められ、そのほとんどが風化作用をうけています。しかし、花崗岩の貫入により、大津島の北側及び蛙島、樺島は、やや粗粒の黒雲母花崗岩で、石材として利用されていました。

2-2 人口等の動向

① 人口、世帯数の推移

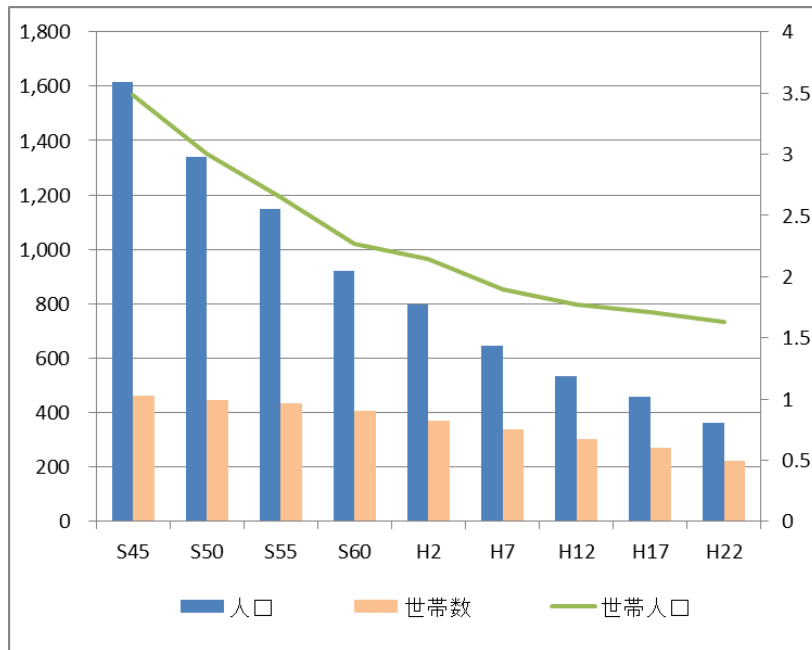
大津島の人口は、昭和 25 年頃の約 2,500 人をピークに、市全体の人口が増加傾向にあった昭和 60 年以前においても、一貫して減少しており、現在は、ピーク時の約 1/7 となっています。

また、世帯数、世帯人数ともにゆるやかな減少傾向を示しています。

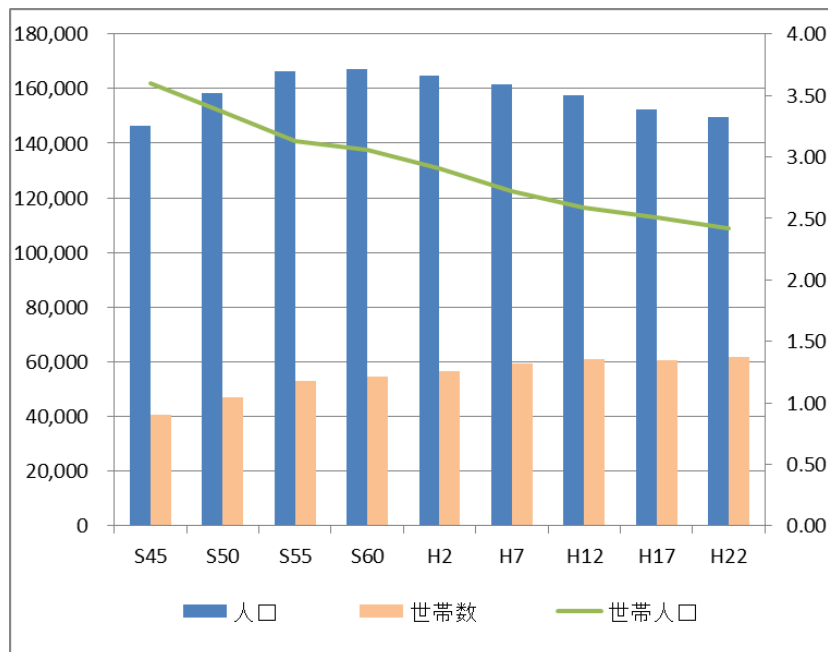
第 1 表 人口・世帯数・世帯人数の推移（国勢調査 1970 年 10 月～2010 年 10 月）

【大津島】	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
人 口	1,617	1,342	1,149	923	796	647	536	459	361
世 帯 数	464	447	433	406	372	340	302	269	221
世帯人数	3.48	3.00	2.65	2.27	2.14	1.90	1.77	1.71	1.63
【市全体】	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
人 口	146,312	158,208	166,318	167,302	164,595	161,562	157,383	152,387	149,487
世 帯 数	40,665	47,027	53,174	54,772	56,688	59,412	60,805	60,672	61,841
世帯人数	3.60	3.36	3.13	3.05	2.90	2.72	2.59	2.51	2.42

H12 以前は徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の合計値で表示。



第1図 大津島の人口・世帯数・世帯人数の推移（国勢調査1970年10月～2010年10月）



第2図 周南市の人口・世帯数・世帯人数の推移（国勢調査1970年10月～2010年10月）

H12以前は徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の合計値で表示。

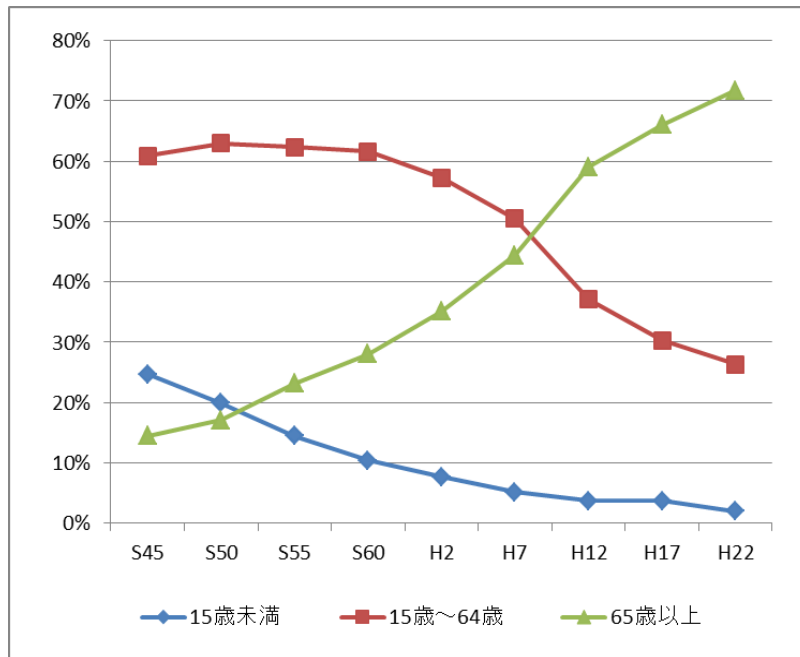
② 世代別人口の推移

昭和 45 年頃は、高齢化率は比較的高いものの、15 歳未満の割合も高く、市全体とほぼ同様の世代構成でしたが、その後、急激に少子化・高齢化が進み、65 歳以上の割合が 71.7% となっています。

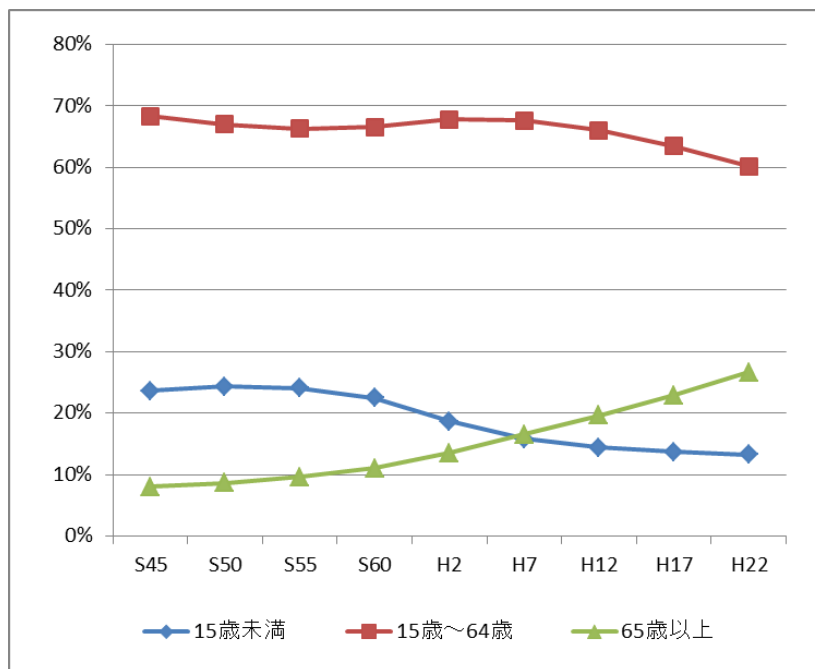
第 2 表 世代別人口の推移（国勢調査 1970 年 10 月～2010 年 10 月）

【大津島】	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
15 歳未満	399	267	167	96	61	33	20	17	7
	24.70%	19.90%	14.50%	10.40%	7.70%	5.10%	3.70%	3.70%	1.94%
15 歳～64 歳	984	846	716	569	456	327	199	139	95
	60.90%	63.00%	62.30%	61.60%	57.30%	50.50%	37.10%	30.28%	26.32%
65 歳以上	234	229	266	258	279	287	317	303	259
	14.50%	17.10%	23.20%	28.00%	35.10%	44.40%	59.10%	66.01%	71.75%
合 計	1,617	1,342	1,149	923	796	647	536	459	361
【市全体】	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
15 歳未満	34,582	38,502	40,021	37,532	30,682	25,591	22,624	20,874	19,769
	23.64%	24.35%	24.08%	22.43%	18.68%	15.86%	14.39%	13.70%	13.22%
15 歳～64 歳	99,964	105,888	110,157	111,273	111,307	109,141	103,695	96,608	89,906
	68.32%	66.98%	66.29%	66.51%	67.78%	67.63%	65.96%	63.40%	60.14%
65 歳以上	11,766	13,709	16,000	18,497	22,232	26,651	30,878	34,905	39,812
	8.04%	8.67%	9.63%	11.06%	13.54%	16.51%	19.64%	22.91%	26.63%
合 計	34,582	38,502	40,021	37,532	30,682	25,591	22,624	152,387	149,487

H12 以前は徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の合計値で表示。



第3図 大津島の世代別人口（割合）の推移（国勢調査1970年10月～2010年10月）



第4図 周南市の世代別人口（割合）の推移（国勢調査1970年10月～2010年10月）

H12以前は徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の合計値で表示。

2-3 土地利用の状況

土地利用の状況を見ると、島全体に平坦地が少ない丘陵地であることからほとんどが山林となっています。

限られた傾斜地には、北から近江、瀬戸浜、刈尾、本浦、天ヶ浦、馬島、柳ヶ浦の7つの集落が存在しています。

各集落の背後地には、農地がひな壇式に山頂部まで広がっていましたが、現在では荒廃が拡大し、一部は竹林となっています。

一方、大津島全体が、都市計画法の用途区域に指定されていますが、「周南市開発行為等の許可の基準に関する条例」の改正（平成23年4月1日施行）により、住宅の整備などの要件が一部緩和されました。また、島の南側全域と洲島、樺島、蛙島が自然公園法の瀬戸内海国立公園の一部に指定され、回天記念館、回天訓練基地跡一帯14.5haが、大津島自然公園として都市公園（近隣公園）に指定されています。

2-4 主要課題

主要課題は、島の現状や時代背景などを踏まえ、次のように整理されます。

① 人口減少と高齢化	昭和 30 年代頃から一貫して人口が減少し、特に生産年齢人口の割合が大幅に減少しています。また、高齢化率が 70%を超え、地域の活力が著しく低下しています。
② 自治機能の低下	地域が本来持っている相互扶助機能が低下し、住民自身による生活道路の維持管理や伝統行事、防災活動などの継続・維持が難しくなっています。
③ 生活利便性の低下	日用生活品や灯油・ガソリンを取り扱う農協や商店の採算性の悪化や経営者の高齢化、後継者不足等によりサービスが低下するなど、生活利便性が低下しています。
④ 生活環境の悪化	人口の減少や高齢化の進展、イノシシ被害などによる耕作意欲の低下に伴い、耕作放棄地や竹林が拡大するとともに、空き家が増加するなど、生活環境が悪化しています。

第3章 大津島の将来像

3-1 島づくりの目標

大津島は、昭和34年に離島振興法に基づく離島振興対策実施地域の指定を受けて以来、生活基盤や産業基盤、交流基盤の整備を計画的に進めるとともに、医療や福祉、教育、コミュニティの充実や推進を図るなど、島の特性に応じて各般に渡る施策をソフト・ハードの両面から展開してきました。

しかしながら、人口減少や高齢化の進展は続き、自治機能の低下や生活利便性の低下、生活環境の悪化など、島の暮らしを取り巻く環境は厳しさを増しています。

こうした中、持続可能な社会を求めて人々の価値観やライフスタイルが多様化する現在、素朴で美しい自然や景観、地域固有の歴史や文化など、大津島が持つ価値や恵みは、全ての人々にとってかけがえのない財産となっています。

こうしたことから、安心して暮らし続けられる地域の実現に向けて身近な暮らしを維持・確保するとともに、大津島が持つ価値や恵みを生かして交流や移住などの取組みを、地域住民や、出身者をはじめとした島外住民、民間事業者、行政など多様な主体の連携により進め、「自然と歴史に包まれた“穏やかな暮らし”と“訪れたい魅力”のある島」の実現を目指します。

《島づくりの目標》

自然と歴史に包まれた

“穏やかな暮らし”と“訪れたい魅力”のある島

3-2 基本方針

島づくりの目標を実現するため、以下の 3 つの基本方針に基づき、施策の展開を図ります。

① 安心して暮らし続けられる島づくり

今後も人口減少や高齢化が著しく進展することが予測される中、生活交通や医療、生活店舗の維持・確保などの身近な暮らしに視点を置き、安心して暮らし続けられる島の実現を目指します。

② 地域資源を生かした活力ある島づくり

豊かな自然、歴史、文化など島ならではの資源を活用した、体験滞在型の交流や島外の人々との交流イベントの開催などを通じ、住民の活躍の場や経済循環を創出するなど活力ある島の実現を目指します。

③ 多様な主体との連携で取り組む持続可能な島づくり

自助・共助による地域づくりに向けて、地域コミュニティの再生・強化を図る一方、出身者や民間事業者、島外の団体等の力を活用するなど、多様な主体の連携による島づくりを目指します。

3-3 重点施策

島づくりの目標を実現するため、以下の3つの施策を優先的、重点的に進めます。

① 持続可能な地域の運営体制づくり

集落を越えて島全体で地域を支えることができる地域コミュニティの再生・強化を図るとともに、島外の人材や団体など、多様な主体との連携による地域づくりを促進します。

また、地域が抱える課題をビジネスの視点で解決するため、雇用の創出を視野に入れた、新たな組織づくりを進めます。

② 身近な暮らしの維持・確保

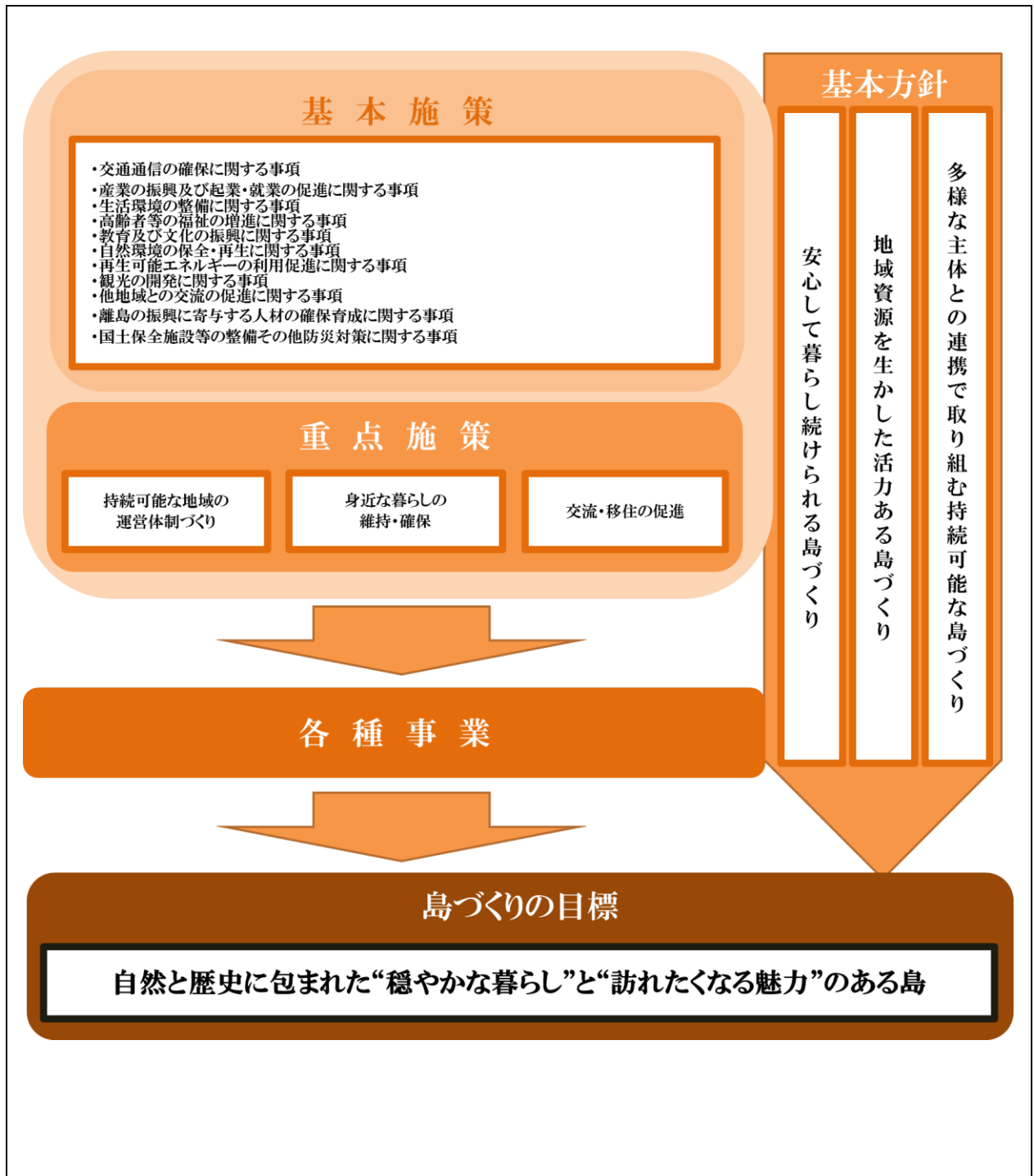
離島航路や島内交通、医療、生活店舗などの生活機能について、民間事業者や地域との連携により生活機能の維持・確保を図ります。

③ 交流・移住の促進

豊かな自然や歴史的資源を活用した体験滞在型の交流事業を通じて、住民の活躍の場や雇用、経済循環の創出を図ります。

また、交流活動を通じた魅力の発信や、空き家を活用した移住者の受け入れなど、地域ぐるみの移住・交流を促進します。

3 - 4 計画の体系



第4章 計画の内容

4-1 交通通信の確保に関する事項

① 離島航路

(現状と課題)

- ・本市出資の第三セクターである大津島巡航株式会社が大津島～徳山港間に定期航路を運航し、国庫補助航路の指定を受け、旅客運送だけでなく、生活物資の輸送やゴミ・し尿処理車両の運搬など、住民の重要な生活基盤の一つとなっています。
- ・平成16年4月に「フェリー新大津島」、平成19年4月に旅客船「鼓海 II」が就航し、交通バリアフリー法に適合した船体となるとともに、運航時間の短縮を図り、2隻により1日9便の運航を行っています。
- ・昭和50年頃をピークに利用者の減少が続いていることや、近年の燃料費の高騰などに伴い、経営状況が悪化しており、今後も厳しい経営が予測されます。

(対 策)

- ・離島航路は、住民にとって本土との間の唯一の公共交通機関であることから、安全かつ安定した航路運営の維持に向け、国、県と協調し、航路事業者に対する支援を行います。
- ・島内交通の充実による、航路経営の効率化と利用者ニーズに応じた運航に努めます。

② 島内交通

(現状と課題)

- ・ 本浦馬島線、本浦近江線、馬島柳浦線の市道 3 路線が島内の交通を支える幹線道路として整備されています。また、市道を補完する形で、農道が 11 路線整備されており、路線数としては比較的高い整備状況となっています。
- ・ 幅員 4m 未満の狭小区間や急カーブ、未舗装の箇所があり、農道については集落への生活道路となっているものもある中で、管理が十分にできず、危険箇所も見られます。
- ・ 各集落と診療所や船着場とを往来する患者等輸送車が運行されていますが、バスやタクシーなどの公共交通機関はありません。

(対 策)

- ・ 計画的な市道の維持管理に努めます。
- ・ 生活道となっている農道の管理のあり方について検討します。
- ・ 住民の交通手段を充実し、利便性向上を図ります。

③ 情報通信

(現状と課題)

- ・ 平成 18 年に、本土からのケーブルテレビ通信網が島内全域に整備され、テレビ放送の多チャンネル化の他、インターネットの利用も可能になっています。
- ・ 島内一部地域では携帯電話の不感地域が存在します。

(対 策)

- ・ 携帯電話の事業者に対し、不感地域の解消に向けて働きかけます。

4-2 産業の振興及び起業・就業の促進に関する事項

① 農業

(現状と課題)

- ・ かつては水産業と並び、さつまいもやみかん生産など、島の主要な産業でしたが、農家数、耕地面積ともに減少の一途をたどっており、現在はほとんどが自家消費などで収益につながっていない状況です。
- ・ 耕作面積は 3.1ha ありますが、平坦地の少ない島の地形のため、大部分の農地は斜面にあります。
- ・ 高齢化や人口減少による担い手不足に加え、イノシシによる農作物被害により、農家の生産意欲が低下し、耕作放棄地が増加しています。
- ・ 天ヶ浦地区、本浦地区では、地域全体でのイノシシ防護柵の設置により、被害の減少が図られました。

(対 策)

- ・ 農家の生産意欲を高めるため、イノシシ被害防止対策の推進や、島の特性を生かした農産物の生産を推進します。

② 漁業

(現状と課題)

- ・ 漁業は、島の基幹産業であり、かつては大型船による遠洋漁業も行われていましたが、現在では、ほとんどが小型船による沿岸漁業となっています。
- ・ 水産資源状態の悪化などにより漁獲量が年々減少しているほか、漁業従事者の高齢化、後継者不足など、漁業を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。

(対 策)

- ・ 漁場の整備や漁場環境の維持、保全に努めるとともに、漁港改修などの計画的な基盤整備を進め、安定的な漁業経営を促進します。
- ・ 水産資源の回復のため、種苗放流などによる「つくり育てる漁業」を推進します。

③ 起業・就業の促進

(現状と課題)

- ・ かつては農水産業に加え、隣接する黒髪島とともに上質な花崗岩（御影石）が採掘されることから、鉱工業も島の主要産業とされてきましたが、現在はいずれも縮小しています。
- ・ 生活物資を販売する商店や建設業、造船業、旅館業などの事業者がありますが、高齢化や人口減少に伴い、事業所数が減少しています。

(対 策)

- ・ 地理的優位性を生かして再生可能エネルギー分野などの新産業の誘致に努めます。
- ・ 地域の課題をビジネスの視点で解決するコミュニティビジネスを推進します。

4-3 生活環境の整備に関する事項

① 住宅

(現状と課題)

- ・ 市街化調整区域に指定されているため、法的にIターンなどの移住ができない状況にありましたが、平成23年度からの規制緩和により、空き家の活用や住宅を整備しやすい環境を整えました。

- ・ インターネットを通じて、空き家情報の発信を行うとともに、住民が移住希望者に地域の様子や空き家を紹介する、里の案内人を設置し、地域における移住者受入れ体制づくりをしました。

(対 策)

- ・ 空き家情報の発信を継続するとともに、空き家を活用した移住者の受け入れを図ります。
- ・ 里の案内人の設置など、地域ぐるみによる移住者の受け入れ体制を維持します。

② 水道

(現状と課題)

- ・ 平成 24 年度の本浦地区の上水道整備により、平成 25 年度には島内全域で本土からの海底送水による給水となります。
- ・ 配水管の老朽化が進んでおり、耐震管に更新する必要があります。

(対 策)

- ・ 安定した水の供給のため、老朽化した配水管を計画的に更新するなど、関連施設の維持管理に努めます。

③ ごみ・汚水処理

(現状と課題)

- ・ フェリーを活用して、島内のごみ及び汲み取り汚水は本土へ運搬、処理をしています。
- ・ 水環境の保全のため、合併処理浄化槽の設置を推進しています。

(現状と課題)

- ・ ゴミ及び汲み取り汚水の本土処理体制の維持に努めるとともに、再資源化による排出抑制の促進を図ります。
- ・ 合併処理浄化槽の設置を推進します。

④ 消防

(現状と課題)

- ・ 島内の消防・防災組織として唯一、非常備消防である消防団がありますが、人口減少と高齢化のため、団員の欠員補充が難しくなっています。
- ・ 防災資機材の配備状況は、消防機庫 7ヶ所、小型動力ポンプ付積載車 3 台、小型動力ポンプ 6 台と、比較的高い充足率となっています。
- ・ 過去に大火は発生していませんが、強風地帯のため、火災が生じると大火に至る可能性があります。
- ・ 台風や地震などの災害にも対応した総合的な防災体制の整備が求められています。

(対 策)

- ・ 男性だけでなく、女性消防団員の入団促進など、団員の確保や人材育成に努め、消防団の活性化を図ります。
- ・ 消防機器の軽量化・自動化を図ることで、消防防災活動を容易にするとともに、老朽化した防災資機材の更新など、計画的に整備を進めます。
- ・ 消防訓練の実施を通して、防災意識の高揚を図るなど、住民全体の総防災要員化を促進します。

⑤ 医療の確保

(現状と課題)

- ・平成3年に設立した大津島保健組合を運営主体として、医師常駐の診療所や患者等輸送車が運営されています。
- ・本土への急患搬送手段として、緊急搬送船を組合が個人に委託し運航しています。
- ・その他の搬送手段として、海上保安庁の巡視船や山口県のドクターヘリの要請も可能です。
- ・疾病予防や介護予防のため、保健師による健康管理についての普及啓発活動を実施しています。

(対 策)

- ・大津島保健組合への支援を行い、地域医療の確保や緊急搬送体制の維持に努めます。
- ・関連機関との連携により、各ライフステージにおける保健や医療などに関するニーズ把握に努めるとともに、健康診査や健康教室等の充実に努めます。
- ・妊婦の健康診査や出産にかかる交通費等の支援について検討します。

4-4 高齢者等の福祉の増進に関する事項

(現状と課題)

- ・平成7年に整備した「大津島老人デイサービスセンター」を拠点に高齢者福祉の増進に努めています。
- ・高齢化率が71.7%(H22年国勢調査)で、市全体の高齢化率26.6%に比較し著しく高い水準となっています。
- ・高齢化の急速な進行とともに、一人暮らしや老人夫婦世帯が大幅に増加しています。
- ・介護保険法対象外のいわゆる「元気老人」が多く、生涯現役社会づくりの普及推進が必要です。

(対 策)

- ・デイサービスセンターを拠点に、介護保険サービスや介護保険外の生きがいデイサービス、適切な通所介護サービスを安定的に提供します。
- ・地域との連携により高齢者の活躍や生きがいの場の創出を図るとともに、一人暮らしの高齢者の見守り活動など、安心して暮らせる環境づくりを推進します。

4-5 教育及び文化の振興に関する事項

① 学校教育

(現状と課題)

- ・学校教育施設として、馬島地区に大津島幼稚園と小学校、中学校を設置しています。
- ・小規模校の特性を生かし、本土からの不登校やその傾向にある児童・生徒を島の学校に受け入れる「大津島ふれ愛スクール事業」を展開するなど、児童・生徒の個性や特性に応じた教育活動を展

開しています。

(対 策)

- ・島の学校の特性を生かし、児童・生徒の個性や特性に応じた教育活動を展開します。
- ・高校に通学する生徒の通学支援について検討します。

② 生涯学習

(現状と課題)

- ・島内2箇所の公民館は、生涯学習やまちづくり、伝統芸能の継承、健康活動、イベントの準備などの拠点として住民に活用されています。
- ・地域の保存会による伝統芸能の継承活動が行われ、子どもから高齢者まで一体となった練習や披露がなされています。
- ・全国で唯一現存する回天訓練基地跡を有しています。
- ・回天記念館からは平和学習やインターネットによる平和やいのちの尊さを発信しています。

(対 策)

- ・地域の伝統芸能保存会を支援し、文化の継承に努めます。
- ・回天記念館や関連史跡を活用して、平和教育活動の担い手の育成を図ります。

4－6 自然環境の保全・再生に関する事項

(現状と課題)

- ・ 大津島は豊かな自然を有し、一部が瀬戸内海国立公園に指定されています。
- ・ 刈尾地区は山口県の自然海浜保全区域に指定されています。

(対 策)

- ・ 合併処理浄化槽設置の推進や廃棄物の排出抑制に向けた啓発、海岸漂着物の清掃活動支援などを通じて、島の豊かな自然環境の保全に努めます。

4－7 再生可能エネルギーの利用促進に関する事項

(現状と課題)

- ・ 島内で使用されているエネルギーは、海底送電や燃料などの船舶運搬により、すべて本土から供給されています。

(対 策)

- ・ 島の特性に応じた再生可能エネルギーの利用について検討します。
- ・ 地理的優位性を生かして再生可能エネルギー分野などの新産業の誘致に努めます。

4－8 観光の開発に関する事項

(現状と課題)

- ・ 四季を通じて自然を満喫できる観光スポットや、回天関連史跡や石材に関する史跡など、歴史を感じることでできる観光資源が数多く点在しています。
- ・ 老朽化が進む回天訓練基地跡の修繕や平成 19 年度に馬島待合所のリニューアル整備をしました。
- ・ 観光ボランティアガイドと一緒に島を周遊するウォーキングコースを整備しました。
- ・ 来島者の大半が釣りや回天関連施設利用者で、島の豊かな自然環境や回天以外の歴史的資源などの地域資源が十分に生かされていない状況にあります。

(対 策)

- ・ インターネットを活用した情報発信を進めるとともに、回天訓練基地跡など、大津島公園周辺の歴史的資源の保全など計画的な施設の維持管理に努めます。
- ・ 豊かな島の自然や歴史的資源、人的資源を活用した体験滞在型のツーリズムを推進します。
- ・ 島内外の人材と連携し、公園の維持管理や誘客イベントの実施、新たな観光スポットやメニューの開発を進めます。

4－9 他地域との交流の促進に関する事項

(現状と課題)

- ・ 地域の自主的活動として、島内の歴史的資源である十人墓にまつわる福岡県能古島との交流や、市内山間部の須金地域との交流活動が続けられています。

- ・ 大津島ポテトマラソンには市内外から約 700 名の参加があり、島の魅力を感じてもらえる貴重な機会にもなっています。
- ・ インターネットや各種移住フェアを通じて、移住希望者への情報発信を行っています。

(対 策)

- ・ 島内外の人材との連携により、大津島ポテトマラソンなどのイベントの開催、島の資源を生かした宿泊訓練や研修の受入れ、体験滞在型の交流事業などを地域との連携により展開することで、来島者に島の魅力を伝えていきます。
- ・ インターネットなどを活用し、交流や移住に関する情報を幅広く提供します。

4-10 離島の振興に寄与する人材の確保育成に関する事項

(現状と課題)

- ・ 地域の活動や課題解決を支援する外部人材として、地域おこし協力隊員など 3 名を配置しています。
- ・ 人口減少や高齢化の進展により、自治会や消防団など、暮らしの安心・安全を確保する自治機能の衰退が懸念されます。

(対 策)

- ・ 地域との連携により、UターンやIターンの受入れを進め、地域の担い手の確保を図ります。
- ・ 出身者をはじめとした島外の人材や民間事業者などとの連携により、地域活動を維持するなど、地域コミュニティの再生・強化を図り、持続可能な地域づくりを推進します。

4-1-1 国土保全施設等の整備その他防災対策に関する事項

(現状と課題)

- ・住宅地や公共施設などが集中する島の平坦地は、海岸線と丘陵地に挟まれています。土砂災害や高潮被害などへの備えが必要であり、山口県の事業により砂防堰堤や防波堤の増設が計画的に進められています。
- ・島の西側に周防灘断層群があり、これによる地震を想定した地震ハザードマップを作成しました。
- ・高潮ハザードマップを作成しました。
- ・耕作放棄地や森林区域では、土壌保持能力の低い竹の繁茂が大きな問題となっています。

(対策)

- ・山口県に砂防堰堤や防波堤などの整備を働きかけていくとともに、防波堤や災害時拠点漁港整備などの計画的実施を検討します。
- ・島の特性を考慮した防災情報伝達の整備に努めるとともに、土砂災害や津波などの災害に関する意識啓発に努め、地域防災力を強化します。
- ・集団的伐採などによる、竹林の繁茂対策を推進し、森林の多面的機能の保全を図ります。
- ・消防団の団員確保や人材育成、機材の軽量化などにより、防災機能の維持確保に努めます。